

陳情第 7 号

2026年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典における
台湾代表への対応の検証及び是正に関する陳情について

目 次	ページ
1 台湾参列のこれまでの経過	2 ～ 7

原爆被爆対策部
令和 8 年 9 月

1 台湾参列のこれまでの経過

期日	相手方	媒体等	長崎市対応者	内容
令和7年 5月29日	駐福岡弁事処長	郵送 →	市長 (調査課)	式典へ台湾被爆者の代表としての参列意向を示す書簡を发出 (6月2日収受)
7月4日	駐福岡弁事処長	電話 ←	副市長	「参列意向を踏まえ参加いただけること、今後は事務方で詳細な調整を行う」旨を説明
7月5日	記者	平和宣言文起草委員会終了後のぶら下がり会見	市長	「参列意向を踏まえご参加いただく」と回答
7月11日	駐福岡弁事処長	訪問	原爆被爆対策部長 調査課課長補佐	式典の概要及び当日の対応を説明
8月4日	駐福岡弁事処	メール →	調査課	・参列者(3名)の連絡 台北駐日経済文化代表処 李逸洋 代表 及び秘書 台北駐福岡経済文化弁事処 陳銘俊 処長
8月9日	台北駐日経済文化代表処 駐福岡弁事処			式典参列者 3名

1 台湾参列のこれまでの経過

期日	相手方	媒体等	長崎市対応者	内容
令和7年 8月10日	台北駐日経済 文化代表処	ホームページ		・李代表が「長崎平和祈念式典の出席」に関してホームページにコメントを掲載 「中国の圧力により国際非政府組織枠での参列となる格下げ待遇を受けたが、世界に向けて平和を追求する決意を伝達することが台湾の最高目標であり、長年にわたりこのような重要な国際平和式典への参列の機会が得られるよう積極的に努力してきたのは、台湾が国際社会と緊密に連携して世界平和に取り組む立場と誠意を示すためであることから、格下げの待遇を受けながらも、出席することを決定した。」
8月13日	中国政府 台湾事務弁公室 (朱鳳蓮 報道官)	記者会見		・台湾の代表が広島市での平和記念式典に参列したことについて「中国と国交のある国と台湾によるいかなる形式の当局者往来にも断固反対する。」 ・「台湾問題の敏感さを認識し、慎重に対処する」ことを求めた。
令和8年 5月11日	記者	定例記者 会見	市長	・式典概要を発表 「台湾は招請等の送付の対象ではない。参列の希望があれば、お断りする理由はない。」と回答
5月11日	駐福岡弁事処	メール 	調査課	台湾については、昨年と同様の対応となることを説明。

1 台湾参列のこれまでの経過

期日	相手方	媒体等	長崎市対応者	内容
令和8年 5月18日	駐福岡弁事処長	郵送 	市長 (調査課)	・式典への参列意向を示す書簡を発出（5月19日収受） 「原爆犠牲者への追悼と平和への願いは政治的立場を超えて人類全体で共有すべき普遍的価値。昨年同様に台湾関係者が平和への祈りをともに捧げる機会をいただきたい。」
5月29日	駐福岡弁事処	メール 	調査課	・参列意向を踏まえご参加いただく ・席数は3席を予定、座席は「海外席」のエリア ・海外席は各国駐日大使、国際機関、姉妹都市招待者等を配置する
5月30日	記者	平和宣言文起草委員会終了後ぶら下がり会見	市長	「5月19日書簡にて参列のご意向が示されたので、お席を用意する。式典は誰でも参列でき、台湾被爆者に対する健康相談事業を市が行っていること、民間レベルの交流等を踏まえると台湾被爆者の代表として参加いただくことは大変意義がある。」旨を説明
5月31日 ～ 8月5日	駐福岡弁事処長	メール 	調査課等	長崎市からの出席者等の確認及び台湾からの確認事項や要望等について、双方で事務的なやり取りを行った。

1 台湾参列のこれまでの経過

期日	相手方	媒体等	長崎市対応者	内容
令和8年 8月6日	駐福岡弁事処	メール ➡	調査課	・参列者の氏名（3名）の回答 台北駐福岡経済文化弁事処 陳銘俊 処長 台北駐福岡経済文化弁事処 同令婦人 台北駐日経済文化代表処 秘書
8月9日	駐福岡弁事処長など		調査課	式典参列者 3名
	台北駐日経済文化代表処 代表	SNS		・李代表が「長崎原爆平和祈念式典に関する声明」を発表 「長崎市が着席場所を外交団エリア外に配置することにより、台湾の国家としての尊厳と地位を傷つけたため、抗議のため出席者を格下げした。」 「昨年台湾は平和式典に参列し、式典後すぐに不当な扱いに対する抗議声明を発表するとともに、この1年間、国会議員を通して長崎市に繰り返し申し入れを行ってきたが、残念ながら依然として台湾に適切な待遇を与えなかった。」 「中国の意向に屈し、台湾の国家地位を矮小化し、台湾の尊厳を侮辱したことに對して厳正に抗議し、非難した。」
8月10日	台北駐日経済文化代表処	ホームページ		「長崎原爆平和祈念式典に関する声明」を掲載（上記と同じ）
	記者	囲み取材 「平和祈念式典への台湾参列について」	市長	・「台湾は長崎市にとって大切な存在であり、台湾側からのコメントについては、内容や真意を十分確認したうえで、市の対応への理解を求めていく。」 ・「台湾代表も海外席のエリア内に配置しており、著しく扱いを変えたとの認識はなく、最大限、丁重に対応した。」 ・「長崎市はいかなる国に対しても、特別の配慮を行っていることは一切ない。」 ・「国会議員などを通じて対応改善を働きかけてきたとしている点について、その具体的な内容や何を指しているのか把握しておらず、そのような認識はない。」

1 台湾参列のこれまでの経過

期日	相手方	媒体等	長崎市対応者	内容
8月10日	台北駐日経済文化代表処 代表	SNS		・「台日関係は一步一步の努力の積み重ねと幾度もの試練を乗り越え築き上げられるものであり、自動的に良くなるものではない。」 ・「尊厳が軽視される問題に戦略的高さから対応している。」
8月12日	台北駐日経済文化代表処 代表	SNS		・台湾が出席して被害者の御霊を慰め、国際社会に対して平和を追求する台湾の決意と意志を伝えるため、戦後80年となった昨年、私は就任後初めて広島市と長崎市に出席した。 ・私たちがレベルを下げて出席することを決めたのは、台湾を矮小化する長崎市側への抗議を示すためだ。
8月19日	台湾外交部長	外交・国防委員会		・台湾の置かれた特殊環境に触れ、「自国の立場を主張するだけでなく、外交関係を維持することが重要だ。」 ・日本との意思疎通は円滑で、「今年の式典では役割分担を行っており、広島の式典には駐日代表が、長崎の式典には処長がそれぞれ赴いた。」 ・今回の平和祈念式典では改善の兆候を認める。「外交は複雑であり、常に期待を100%満たせるわけではない。」
8月25日	記者	定例記者会見	市長	・「SNS上を含め様々なご意見をいただいていることについて、重く受け止めている。」 ・「台湾はさまざまな分野でつながりを持つ大事なパートナーであり、今後も信頼関係の構築に努めたい。」

1 台湾参列のこれまでの経過

期日	相手方	媒体等	長崎市対応者	内容
9月8日	長崎市議会	一般質問	市長	・台湾は我が国そして長崎市にとって、経済、文化、観光、人的交流など幅広い分野で深い繋がりを持つ重要なパートナーである。 ・長崎市では台湾在住の被爆者を対象にした健康相談事業を実施するなど、台湾とのつながりを大切にしてきた。 ・台湾の皆様が、他のあらゆる参列者の皆様と同様に、原爆犠牲者への追悼と平和への願いを共有し、台湾被爆者の代表として平和祈念式典に参列したいという意向を示され、昨年初めてご参列いただき、そして今年も同様にご参列いただいたことについて、長崎市として大変心強く思っている。 ・他方、台北駐日経済文化代表処の駐日代表による声明を受けまして、平和祈念式典における台湾の配席等について、SNS上を含め様々なご意見が寄せられたことは、大変重く受け止めている。 ・その中には、式典における台湾の配席が中国の意向によるものであるかのような主張が見られますが、いかなる国に対しても、特別の配慮は一切ないということ断言する。 ・台湾の皆様には、配席場所等について予めご説明の上、誠意を持って丁寧な対応を行ったものと考えている。 ・大切なことは、長崎市と台湾の間の長年のつながりを大切にし、未来志向で持続可能な信頼関係を構築することであり、現在、確かなチャネルを通じて、真摯に意思疎通を行っている。 ・今後も引き続き、当事者間で、静かな環境の下で、しかし、しっかりと意思疎通を続けていく。